

130306 コガモ

「コガモ」は、「冬鳥」としてシベリア方面から飛来します。

この時期、湖沼や河川、池、干潟などで、群れを作って越冬していますが、市街地の河川や公園の池などでも観察されることがあります。

体長は40 cm弱と、ハトより一回り大きい程度で、日本に生息するカモ類の中では最も小さい種であることから、「小さいカモ」という意味の「コガモ」と命名されたのですね。

雄は茶色の覆面をしているように見え、全体的にカラフルな色彩ですが、一方の雌は茶褐色系で非常に地味な感じですよ。

雌が地味な体色である理由は、地上に巣を作りますので、抱卵・育雛中に外敵から見つからないようにするための作戦なのでしょうね。

ちなみに、9月頃に日本に渡ってくる時は、雄も雌と同じような地味な体色なのですが、やがてカラフルに換羽し、春に北へ旅立つ前には「番」（つかい）を作っています。

■写真①：河川で採餌中のコガモ

◆食性は植物食で、水面から届く範囲の藻や水草を食べています。（潜水はしません）

■写真②：池でくつろぐ雄

◆緑色の顔に茶色い覆面をしているように見えます。

◆体の側面に白い筋が見えるのも、この種の特徴の一つです。

■写真③：池でくつろぐ雄

◆光線の関係で、この個体の顔色は青紫色に見えます。

■写真④：池でくつろぐ雌

◆この種も「マガモ」と同様、かなり美味のようですが、体が小さい分、肉の量も少なくなりますので、狩猟の獲物としてはあまり狙われないようです。







